

テニス

スペシャルオリンピックスのテニス公式スポーツルールは、全てのスペシャルオリンピックステニス競技において適用される。国際的なスポーツプログラムとして、スペシャルオリンピックス(SO)は国際テニス連盟(ITF)のルール(参照：<http://www.itftennis.com/abouttheitf/rulesregs/>)を基に、スペシャルオリンピックス公式スポーツルールを定めた。スペシャルオリンピックスのテニス公式スポーツルールおよびスポーツルール総則第1章と矛盾する場合以外はITFあるいは国内テニス連盟(NGB)のルールが採用される。矛盾する場合は、スペシャルオリンピックスのテニス公式スポーツルールが適用される。

セクション A 公式種目

以下はスペシャルオリンピックスにおける公式種目の一覧である。

これらの種目は、あらゆる競技能力のアスリートに競技する機会を提供することを目的としている。各国プログラムは提供する種目、および必要に応じて、それら種目の運営方針を決定することができる。コーチは、それぞれのアスリートの技術と興味に応じて、適切なトレーニングの提供と種目を選択することに責任がある。

1. 個人技能競技 (ISC)
2. シングルス
3. ダブルス
4. 混合ダブルス
5. ユニファイドスポーツ® ダブルス
6. ユニファイドスポーツ® 混合ダブルス

セクション B 競技ルール

1. マッチプレー

a. マッチは次のうち1つから成る：

- 1) 6ゲーム1セットの試合。

アドバンテージ・ゲームは無く、対戦相手に2ゲーム以上の差をつけ、6ゲームを先取したプレーヤーまたはチームが勝者である。6ゲームオールになった場合、7ポイント先取のタイブレーク・ゲームが行われる。

- 2) 2セット先取の短縮ゲームセットによる試合。

対戦相手に2ゲーム以上の差をつけ、1セットの内4ゲームを先取したプレーヤーまたはチームがそのセットの勝者である。スコアが4ゲームオールになった場合、7ポイント先取のタイブレーク・ゲームが行われる。セットカウントが1セットオールになった場合も、試合の勝者を決めるため、7ポイント先取のタイブレーク・ゲームが行われる。この場合のタイブレーク・ゲームはファイナル・セットの代わりとなる。

- b. 全ての試合で、ノーアドバンテージ・スコアリング方式が適用される。ノーアドバンテージの試合方法とは、その名が示す通りである：先に4ポイント取ったプレーヤーがゲームの勝者となり、ゲームの7ポイント目が、どのプレーヤーにとってもゲームポイントとなる。7ポイント目に到達した時、レシーバーはアドバンテージコートでレシーブするか、デュースコートでレシーブするかを選ぶことができる。

注：スコアのコールは従来の方式か、通常の数字、すなわち「0、1、2、3、ゲーム」のどちらかを用いる。

- c. プレーヤーはゲームの終わりにエンドチェンジする際、スペシャルオリンピックより認定を受けたコーチから指導を受けても良いが、タイブレーク中はできない。

2. ユニファイドスポーツ® ダブルス

- a. ユニファイドスポーツ® ダブルスの各ペアは、アスリート1名とパートナー1名より成る。
- b. 各ペアは、2人のサービスの順番とコートの位置(アドコートかデュースコート)を決める。

3. 個人技能競技

注：競技会責任者は個人技能競技が行われる各競技会において、どの種類のボールを使用するかを指定しなければならない。これらは従来のテニスボール、低圧のボール、もしくはスポンジ状のボールでもよい。個人技能競技で使用されるボールは、プロテニス協会 (PTR) 公認のスピードボール®が推奨される。

a. フォアハンドボレー

- 1) アスリートはネットから約1m離れて立ち、球出しの人は反対側のコートのサービスラインとネットの中間に立つ。アスリートにはボールが5回出され、ネットの向こう側にうまくボールを打ち込めるかを競う。球出しの人は、アスリートのフォアハンド側に下手投げでトスする。
- 2) アスリートは、バックコート内、つまりベースライン、サービスライン、シングルスサイドラインに囲まれる範囲に打ち返すと、10ポイントが与えられる。どちらかのサービスボックス内に打ち返すと、5ポイントが与えられる。

b. バックハンドボレー

- 1) 球出しをアスリートのバックハンド側に行う以外は、フォアハンドボレーと同様である。1人のアスリートにつき5回挑戦できる。

c. フォアハンド・グランドストローク

- 1) アスリートはベースライン上、またはその後ろに立つ。球出しの人は、同じコート
のネットとサービスラインの間に立ち、下手投げでボールをトスし、ワンバウン
ドしてからアスリートのフォアハンド側に届くようにする。1人のアスリートにつ
き5回挑戦できる。
- 2) アスリートは、バックコート内、つまりベースライン、サービスライン、シング
ルスサイドラインに囲まれる範囲に打ち返すと、10ポイントが与えられる。どち
らかのサービスボックス内に打ち返すと、5ポイントが与えられる。

d. バックハンド・グランドストローク

- 1) 球出しをアスリートのバックハンド側に行う以外は、フォアハンド・グランドスト
ロークと同様である。1人のアスリートにつき5回挑戦できる。

e. サーブ — デュースコート

- 1) アスリートは、右側のコートからデュースコートのサービスボックスに、5回正規
のサーブを打つことができる。正しいサービスボックスにボールが入ると、10ポ
イントが与えられる。アスリートがフットフォルトをとられたり、サービスボッ
クス内にボールが入らなかった場合、0ポイントの得点となる。フットフォルトとみ
なされるのは、アスリートがベースライン、あるいはセンターマークやサイドライ
ンの仮想延長線を踏んだり越えたりした場合である。

f. サーブ — アドバンテージコート

- 1) 左側のコートからアドコートのサービスボックスにサーブする以外は、デュースコ
ートの場合と同様である。1人のアスリートにつき5回挑戦できる。

g. 動きを伴う左右交互のグランドストローク

- 1) アスリートはセンターマークの上、あるいはベースラインの後ろに立つ。球出しの
人は同じコートサイドのサービスラインとネットの間に立ち、アスリートのフォ
アハンド側とバックハンド側へ交互にボールをトスする。球出しは、全てサービ
スラインとベースラインの間地点で、かつセンターマークとシングルスサイドライ
ンの間地点に行うようにすること。次のボールが出される前に、アスリートはセ
ンターマークまで戻ることができる余裕が与えられなければならない。1人のア
スリートにつき10回挑戦できる。
- 2) アスリートは、バックコート内、すなわちベースライン、サービスライン、シング
ルスサイドラインに囲まれる範囲に打ち返すと、10ポイントが与えられる。どち
らかのサービスボックス内に打ち返すと、5ポイントが与えられる。

h. 最終得点

- 1) アスリートの最終得点は、個人技能競技を構成する上記7種目のそれぞれの成績を合計することによって決定される。

<スペシャルオリンピックスのスポーツプログラムを実施するに当たっての留意点>

スペシャルオリンピックスの正式なスポーツプログラムとして活動する場合には、事前に最寄りの地区組織事務局、又はスペシャルオリンピックス日本事務局にご連絡ください。